前略　日頃の府中市と市民のための議員活動に、敬意を表します。

さてさっそくですが、私は、同封したように「府中市に”自然エネルギー社会をめざす都市宣言”を望みます」陳情を十二月議会に提出し、去る十二月十一日の建設環境委員会の審査において、補足説明を行なった東京農工大学名誉教授の本間慎です。

建設環境委員の先生方には、ご熱心に審査をいただき感謝いたします。建設環境委員会での審査では、「継続審査に付する」旨の結論となりましたが、来る十二月十八日の本会議で正式の決定を見るとのことでございます。

そこで本会議に参加される貴職に、是非ともお願いしたく筆をとりました。

この陳情に対しては継続審査を提案された議員の方でも「自然エネルギーをめざすのは温暖化・省エネからも優先課題で原発ゼロへの態度も同様」とか「党としても方向性に反対の余地はない」といったお考えでした。

ただし「総選挙がらみで国の政策は流動的」「地球温暖化対策・省エネ対策など文言にもう少し総合的な観点が欲しい」「原発の廃炉はいますぐという印象でやや荒っぽい」という宣言の文言上の表現に関するご指摘があり、この点などを考慮して「継続審査」をご提案される意見も多かったように受け止めております。

補足説明とそれにともなう質疑でも述べましたが、私たちは陳情趣旨に記載した内容をそのまま「宣言文」とすることが適切だと考えてはおりません。補足説明にも記したように更なる推敲をへてこそ市民が共有できる「宣言」になるものと思っています。

そのためには指摘された各種の文言上の提案の取扱いも含めて議会のなかに「起草委員会」（仮称）を設けてしっかりと練り上げることが肝要と考えております。

大切なことは、「方向性に異論はない」という理念の一致を共有することこそ「宣言」の目的です。したがって、慎重を期するがために、採否の「継続審査」で論議や検討を先延ばしにするよりも、むしろ「採択」した後に文言の検討を急ぎ、多くの市民が受け入れ可能な宣言文言を模索することこそ、肝要ではないかと思います。

そこで貴職におかれては、本会議において　前記の建設環境委員会での議論もふまえて積極的な陳情採択のご意見を述べられるようにお願いするものであり、一万五千名を越える署名に託された願いが実るよう、是非とも十二月議会において採択をお願いしたく筆をとりました。

手紙の趣旨をお汲みいただければ幸です。

本格的な寒さに向う折り、くれぐれもご自愛下さい。

草々

二〇一二年十二月吉日

府中市に”自然エネルギー社会をめざす都市宣言”を求める署名実行委員会

実行委員長　本間慎

殿